中央公民館だより

平成 28 年 10 月 1 日発行
三原市中央公民館
三原市円一町２丁目３番１号
TEL 0848-64-2137　FAX 64-0137

日本語学習ボランティア養成講座
課程修了者の今後の活躍に期待

本年４月１日より、中央公民館のロビーに国際交流サロンが開設され、これまで市内在住の外国籍の方を対象にボランティアの皆さんによる日本語学習の支援等が続けられています。

さらにその活動を促進すべく、本館では９月21日、28日、10月５日の３日間、日本語学習ボランティア養成講座を開催しました。ただ単に日本語の学習支援をするだけでなく、お互いの文化にも触れ合い、相互理解を深めながら楽しく国際交流を進めるのがねらいです。

ひろしま国際交流センターから派遣された３人のご講師に、それぞれの専門性を活かして支援のあり方を丁寧に指導していただきました。まずは、もし仮に自分が日本語の全く通じない環境に置かれたとしたら…という疑似体験から始まり、では、どういった手立てが必要か…という支援の実際に至るまで―。

受講生の皆さんは、ボランティアの志高く、講師の一言一句漏らすまいと熱い眼差しで聴講しておられました。10月５日の最終日には、修了証も発行します。ますますの国際化が進展していく中、ボランティアの皆さんにも大きな期待が寄せられることになるでしょう。今後の活躍を願っています。

『手縫いで楽しむ古布実用小物』突撃インタビュー

私流『仕事の流儀』④ 赤宗明恵さんの場合

赤宗明恵先生には、現在中央公民館主催講座にて「手縫いで楽しむ古布実用小物」の講師をお願いしています。

先生は「15 年前に古布にはまったのよ」とおっしゃいます。それまでは、10 年くらいパッチワークをされておられたそうです。きっかけはまだ古布を用いたモノつくりの書籍などが出版されていない頃、友人から「着ない着物を使ってモノつくりができないかしら？」と聞かれた一言からみつけた!!とひらめかれたそうです。大量に捨てられた着物を、赤宗流“湯のし”をし、1 枚の着物を 1～2 時間かけてカミソリを使って 1 枚の反物にもどします。根気のいる仕事ですが生まれ変わらせるモノを想像したり、考えている時はワクワクされるそうです。モノを決めたら、切り分けて材料キットに設えられます。赤宗流は『着なくなった着物を今使うモノに生まれ変わらせ日常に生かして使いましょう』です。「飾っておくだけだともったいないでしょ」ブラウスに生まれ変わらせてもジャバジャバ洗って、着ちゃいましょう。中央公民館ではポシェットやブラウス等、小物作りを主にご教授いただいております。他館の自主グループでは、大作にも取り組まれております。「同じデザインでも素材の違いで、こんなにもモダンで粋な表情を見せるのよ!!」と講座生さんの作品に目を細められ、ほほえまれました。一度ファッションショーでもやってみたいわ！とくくられました。

9 月末より中央公民館にて赤宗先生の作品展示をしております。

是非ご来場下さい。

10月・１１月の体験講座

講座名	開催日時	対象	参加費	持参物	定員	申込期間
フィットネス　フラ タヒチアンエクササイズ	10月２６日(水) 10：00～11:30	大人	100円	タオル、水、動きやすい服（あればパフスカート）	20名	１０月３日 ～１０月１９日
エンジョイ!!ハワイアンキルト	１０月17日・24日(月) 13:30～15:30	大人	1,700円	キルティング用糸(白か生成り)・手縫い針（No8）・しつけ糸	12名	10月３日 ～10月14日
毛利『中国行程記』 西国街道歩き旅(13km)	11月27日(予備12月４日) 10:00～15:30	大人	100円	筆記用具、弁当・飲料、歩行できる服装	20名	11月１日 ～11月24日
そば打ち体験講座 ―新そば打っていただきましょう―	11月６日(日) 10:00～13:00	大人	1,600円	エプロン・三角巾・タオル３枚・タッパー2こ	12名	10月 ３日 ～11月 ４日

ファーム Ueda の モダンな日々

“自由人・夢中人・地域人”活動拝見⑧

今回登場いただくのは、木原在住植田美佐雄さんです。

植田さんご夫妻は、音楽メーカーにお勤めでしたが、16年前にUターンされ現在は120本の八朔と1.5ヘクタールのわけぎ畑を管理・出荷されています。そのかたわら音楽活動をされています。植田さんがピアノで奥様がフルートのユニットです。5月木原は柑橘類の花の甘い香りにつつまれます。その香りの中、「畑のコンサート」を開催され始めて5年です。目の前に海、空にハングライダー、空と海に抜ける音は最高のシチュエーションです。地元の小学校で、朗読絵本の会とコラボされたり、尾三、広島、福山で精力的にライヴ活動をされています。

今回は趣向を変えて、地元木原にある古民家カフェでジャズライヴをされました。セピアカラーに包まれたオシャレでモダンなライヴでした。そんな**ファームUeda**の一日は４時起床から始まり、木原ブランドわけぎの出荷をし、夕方にはピアノマンと化します。そのバイタリティーあふれる活動の根っこの想いは、東高校での音楽部の顧問だった宇都宮啓介先生との出会いから始まったと言われます。音楽の魅力、音楽の持つエネルギーを教えてくれた人で、若くして亡くなられたが、死してなお、自分達の心に宿り影響し続ける存在。恩師めめさん（ニックネーム）に出会えたお陰で音楽のある人生の楽しさを味わっていると。実際仕事で悩みマイナスな局面でも、音楽と人とのつながりが救ってくれたそうです。浜松周辺にはアマチュアのビッグバンドが10くらいあって、そこでジャズに出会っておおげさだけど仕事も続けることができたと振り返られます。今回のジャズライヴゲストのサックス奏者とも、行きつけの床屋のマスターが引き合わせてくれたそうで、ご縁の不思議さを感じたそうです。彼とはお互いが鹿皮の手袋の様に、しっくりと息があった演奏ができるそうで、その演奏に皆うっとりとしました。とても贅沢な時間でした。地元を元気に!!出会いの楽しさを大切にして農村のエンターティナーめざして頑張って生きたいとMCは熱かったです。

編集後記

今年は、広島が熱いと感じるのは私だけでしょうか？　６月の広島でのG7開催、７月のオバマアメリカ大統領広島訪問、そして25年振りに広島東洋カープが優勝をはたしました。７月中旬あたりからの勢いはものすごくて、試合の回の後半からの逆転劇が続きました。チームの団結力はもとより、球場で応援する側、テレビの前で応援する私たちも、一致団結した感がありました。私がもともと個人的に野球観戦が好きですので、夏は甲子園のテレビ観戦や熱闘甲子園という番組も録画してまで見てしまいます。甲子園が終わると、甲子園ロスになってしまうのですが、今年はリオのオリンピック・パラリンピックなど、次から次へと応援することがあり、気がつけばすっかり秋になっていました。アスリート達は私たちが見えないところで多くの努力をしているからこそ、私たちにこんなに感動をあたえてくれるんだ、明日からがんばろう!!と思えました。日々の仕事も、チームワークで楽しくがんばろう!!と思えました。

『最高で～す!!』『神ってる!!』が流行語大賞にノミネートされるでしょうか。

お問い合わせ・ご相談は、三原市中央公民館(TEL0848-64-2137　FAX64-0137)　生涯学習相談員　中山・村上まで